

実況中継「土曜講座」

第9号 2022年11月12日 発行

市川学園 10月29日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール



賀来タクト先生のご紹介

1966年 愛知県生まれ。
映画専門誌やライナーノーツ等の執筆で活躍されている、日本でも数少ない映画音楽評論家。
98年と2000年のジェリー・ゴールドスミス来日コンサートに企画協力。映画雑誌『キネマ旬報』でコラム「映画音楽を聴かない日なんてない」を連載中。

主な講義内容の紹介

映画は当初は無声映画であり、世界で最初の映画音楽は1908年、サン＝サーンスが『ギーズ公の暗殺』のために作曲した音楽と言われる。そのような意外な映画音楽の歴史から始まり、映画音楽は、まだ映画が未完成の線画から作らなければならないことや、そもそも作曲にはとてつもない時間がかかるにも関わらず映画音楽の作曲期限は驚くほど短いこと、せっかく作った曲も映画監督の意向でボツにされてしまうことなどの、映画音楽を作曲することのとんでもない難しさ。そういったことについて、映画に使われたOKテイクの曲と、ボツになってしまった曲を実際に聴かせていただきながら、どのような試行錯誤が行われていたのかわかりやすく解説していただきました。

受講レポートから

・無声映画は思ったよりおもしろかったけど、音が入るともっとおもしろくなると思うと音楽の力はすごいなと思った。少しずつ変えながら一つの音楽ができあがることに感動した。音楽の拍や調で、切羽つまっている様子の表現がものすごく伝わり、見ている方も映画の世界に入りこんで見られて感動した。ゴールドスミスのムーランのシーンで、音が違うだけで登場人物の心にせまれるように感じた。本当にすごいと思い、感動した。今までなにか曲をきいたとき、映画だったらこういう場面に使われるだろうなということはよく考えるが、映画を見るとき意識することはあまりなかった。ストーリーと音楽のつながりを考えるとものすごくおもしろくなるなと感じた。映画音楽は音楽家と監督などの人たちとの葛藤の中で作り出されるものだから、思い入れもきっと深いのだと思う。音楽は偉大だ。(中1女子)

・映画音楽が付くだけで、その映画の勢い、迫力、雰囲気が一気に加わって臨場感が湧いたし、映画そのものの彩りが広がって凄いなと思いました！また、映画と音楽を一体にすることの大変さや、たった数分の場面でさえとてつもない時間がかかること、そのとてもな



い苦勞を超えて作ったものでも監督との意見の違いによっては何度も作り直す必要があることなどを学び、沢山の困難の上で作られた映画音楽に注目しながら、味わいながら映画を見たいと思いました！そしてエアホースワンやムーランを観てゴールドスミスの映画音楽に深く触れてみたいと思いました！（昔の映画の映画音楽で作曲家によってそれぞれの個性の違いがあることも分かって面白かったのので映画だけでなくアルバムを買って聴き比べてみたいです^^）(中3女子)



・スター・ウォーズの冒頭だけを聴き比べたとき、OKテイクとその他のものでは始まり方のインパクトが全く違って驚いた。それを10週間で作ることができるなんて、映画音楽の作曲家はすごいと思う。また、音がなく、絵のみの状態で曲をつくっているのもすごいし、声がなくても音楽と絵だけのインパクトがすごく、感動した。ゴールドスミスさんのつくった曲の元の譜面なんて見る機会がないので、見ることができて良かった。音と映像がぴったり合っている上、

譜面もかなり細かくつくられていてすごかった。「エアフォース・ワン」の曲は、元の人がつくった曲もかなりすごかったが、ゴールドスミスさんの曲はテーマがかなり分かりやすい上に打楽器が効果的に使われていて、すごく迫力があつた。絶対に聴くことができない完成前の曲も聴くことができて、すごく充実した時間だった。今度からは、もっと音楽を聴きながら映画をみようと思う。(高1女子)

・私はもともと映画や、アニメ、ドラマのサウンドトラックを聞くのが好きで、その物語と同じくらい興味があつたので、今回この講座を受けることができて、とても学ぶことがたくさんありました。先生も仰っていた通り、映画、音楽はそれほど注目されるものではないイメージを私も持っていたのですが、1908年にサン＝サーンスが作曲しているのを知ってとても驚きました。当時は今よりも映画が高尚なものであつたのだらうかと思った。ムーランの音楽とアニメーションを見て、メインテーマを編曲しながら一本の音楽を作り上げるのは、鬼滅の刃に似ているような気がした。また論理的に音楽を作り上げるという意味では、バーンスタインにも通じるようなところがあるように感じた。いずれにしても、映画音楽も他のジャンルの音楽と同じように作曲家が誠心誠意込めてつくる態度には尊敬の念を払わずにはいられない。ゴールドスミスの作品をいくつか見せてもらって私が最も強く感じたことは、テーマがはっきりしている、ということです。場面に印象づけるのが音楽である映画をつくりあげる構成とメロディーに感動しました。どの楽曲にも「彼にしか作れない」ゴールドスミスらしさ“が全面に出ているのではないか。(高2女子)

・最後の先生の言葉に心を打たれました。「自分の人生を映画だとすると同様の Jpop かポカロやクラシックも全て映画音楽である」というのはすごくいいなと思いました。映画音楽というものにすごく興味を湧きました。私の中で一番好きな映画音楽を作っている人はやっぱり久石さんです。ジブリの音楽はとても綺麗で聴いていてとても落ち着くので好きです。そんな久石さんのプライドのためにも映画音楽のことを決して劇伴とは言わないようにしたいと思います。省二先生の凄さを再実感しました。これからもたくさん音楽のことを教えて頂きたいと思いました。ご講演ありがとうございました。(

